

## 韓国の日本語学習者が求めるネイティブ／ノンネイティブ 教員の資質・能力と役割

中 川 良 雄

〈Summary〉

The main purpose of this research is to work out ways to inquire about qualities and abilities that native speaker teachers (NST)/ non-native speaker teachers (NNST) are to be equipped with for the sake of developing excellent foreign language classes as well as to search for good ways for teachers collaborate and cooperate with each other.

The author believe that it is possible to conceptualize “excellent foreign language classes” by delving into the linguistic individuality and the pedagogical commonality (universality) via our survey results as to what the teachers’ roles are and what qualities and abilities the learners expect of NSTs and NNSTs. If we can find out what the teachers are expected of, then the findings will not only help to facilitate teacher-training but also to improve the necessary qualities and abilities for good teachers.

We have already discussed in the previous papers, on competences and abilities required for English and Chinese, French German teachers. We are going to discuss of those required for Japanese teachers in Korea. We know that there are so many NST and NNST in Korea, if the cooperation or collaboration of NST and NNST well worked, we will be able to pursue ideal foreign language education.

はじめに

近年の外国語教育においては、従来の文法能力の向上とオーディオ・リンガル・メソッドを中心とした、教師主導型の練習方法から、学習者のコミュニケーション能力の伸長を目指した、学習者主体の教授スタイルへと変換を遂げつつある。それと同時に教師に求められる資質や能力も変化してきている。また学習者のコミュニケーション能力の向上を図るために、ネイティブ教員を積極的に活用し、ノンネイティブ教員と連携・協働を図りながら、学習者のニーズに応えようとする動きもある。

われわれはこれまでに、中国の日本語教育（2018 b）や日本国内（京都外国語大学）の外国語教育（2018 a, 2018 c）において、学習者がネイティブ／ノンネイティブ教員に求める資質や能力について考え、両者の役割分担について考察を進めてきた。

本稿では、（韓国の）韓国人日本語学習者が求めるネイティブ／ノンネイティブ教員の資質・能力について稿を進めるが、国際交流基金（2014）の調べによると、韓国の日本語学習者数は、初等教育・中等教育・高等教育・その他合計で、840,187名で、教師数は、17,817名である。日

本語学習者数では、世界第3位であり、日本語は、韓国語との文法構造の類似性や地理的距離が近いことなどから、学びやすい言語であるとされている。また同基金（2014）では、「多くの大学で日本語ネイティブ教師が雇用されており、2～3年の短期契約が一般的。大半の教師が「日本語会話」等の授業を担当している。」と報告している。雇用形態や条件はともあれ、ネイティブ教員の役割として、「会話」を請け負っていることが分かる。

韓国で求められるネイティブ／ノンネイティブ教員の資質・能力と役割分担は、前稿同様、目標言語を問わず「超言語的」な観点から、共通した概念として捉えることができるのか、あるいは韓国の日本語教育に特異な概念の抽出が可能か、前稿同様、学習者へのアンケート調査を実施し、共通化（一般化）と特殊化の融合を図る。

韓国の日本語教育で求められる教員の資質や能力が明らかになり、教員の連携・協働が図られるようになると、韓国の日本語教育には益々の進展が望まれ、教員養成も容易になるものと感ぜられる。

## 1. 言語学習ビリーフ

### 1.1 ビリーフ研究

言語学習ビリーフに関する研究は、Howitz（1987）に始まる。Howitz（1987）は、言語学習ビリーフ研究の目的を、「教師がある教育手法を選ぶ理由を理解するため」と「言語教師の言語学習ビリーフと学習者の言語学習ビリーフがどこで衝突するかを知るため」の2点にあるとしている。

Howitz（1987）は、自身が開発したBALLI（Beliefs About Language Learning Inventory）と呼ばれる質問調査紙を用いて、32名のISL学生に対して、「言語学習の適正」「言語学習の困難さ」「言語学習の本質」「学習とコミュニケーションストラテジー」「言語学習の動機」の5領域について調査し、「学習者は、言語学習に関して様々な学習ビリーフを持っている」「学習ビリーフが学習ストラテジーにも影響を与えている」ことなどを指摘した。また教室活動の種類によっては、学習者に不満やストレスを感じさせる恐れのあることも指摘している。

本稿ではHowitz（1987）の調査結果を詳細に述べないが、学習者が信じる学習ビリーフを知ることが、教員が教育を進める上で極めて重要な資料を得ることになる。

このHowitz（1987）に倣い、いくつかの国や地域、機関で同様、あるいは調査対象者の実情に合わせた言語学習ビリーフ調査が実施されている。日本語学習者のビリーフを知ることが、「学習者が言語学習に対して意識的・無意識的に抱いている態度や意識であり、学習者のビリーフを把握することは、学習行動の背後でそれを支える学習者の信念を把握するという意義のほかに学習活動を学習者が客観的に把握することで、自らの学習行動を反省し改善する動機を与える意味がある（板井、1999）。

本稿では、趣旨に鑑み、韓国人日本語学習者の言語学習ビリーフ研究について述べる。

## 1.2 韓国人日本語学習者の言語学習ビリーフ

韓国人日本語学習者のビリーフ研究として、岡崎・堀（2000）がある。岡崎・堀（2000）では、アジアの学習者が欧米系学習者と異なった言語学習ビリーフを有するのか、それは首尾一貫したものなのか、そのビリーフはいかにして形成されるのか、殊に日本語授業を経験することによって変化するものなのかを知ることを目的として、BALLIを用いた質問紙調査を韓国で日本語を学ぶ大学1年生73名を対象に行った。その結果、「文法学習中心という韓国人学習者のステレオタイプは、日本語学習の当初からあったというよりは、日本語学習の経験を通して形成された」可能性の高いことが示された。すなわち教員の言語教育観や価値観が学習者の日本語学習者の言語学習ビリーフを変化させたことになる。

また呉（2006）は、韓国の日本語学習者50名を対象にアンケート調査を実施し、その中の13名を対象にインタビュー調査を実施している。それらを分析した結果、韓国の日本語学習者は、「性別や専門などの個人が属している集団によって言語能力に差があるなどといった考えをあまり持たず、個人の努力次第で上手になる」というビリーフを持っていることが明らかになった。日本語学習に関しては、他の言語に比べて、学習しやすいとは認めつつも、日本語の学習そのものが易しいとは思っていないことや、コミュニケーション活動に関しては、コミュニケーションの流れに注意を払いつつも、正確さを重視するという言語観を有していることを明らかにしている。誤用訂正を重視するなど、正確さを重視する傾向が多く多くの学習者に観察された。日本語学習動機については、学習を始めた当初より、強くなったとする意見が多く、日本文化に対する興味から、「日本へ行きたい」「日本人と上手に話せるようになりたい」という総合的動機づけから学習ビリーフを変化させていく。授業中に自然なコミュニケーションを行いたいという願望が強く、日本語を媒介として、自分の関心事や専門の勉強をさらに深めたいという積極的動機づけを有している。とはいえ、日本文化やコミュニケーション活動に関心を示すものの、教室活動に結局的に参加している学習者は少ないと指摘している。誤用を犯すことの恐れ、日本語運用能力の不足、消極的な性格などの韓国人特有の性格が教室活動への積極的参加を妨げているとも指摘されている。

さらに呉（2007）では、学習ビリーフと学習ストラテジーの関係について考え、日本語を専門とする韓国人学生を対象に、「言語学習について抱く信念の総体」としてのビリーフと「言語を習得することを目的とした計画や手段全般」としての言語学習ストラテジーの関連性を明らかにしている。そしてどのようなビリーフが学習ストラテジーの使用に望ましい影響を与え、どのビリーフが学習ストラテジーの使用を制限しているかについて考察している。すなわち呉（2007）はこの研究で、韓国人日本語学習者は、日本語学習に対して積極的なビリーフを有してはいるものの、実際の教室活動においては、対極的に消極的なビリーフを発動させていることを明らかにしている。「他人との会話を楽しむ」や「授業時間に活発に発言する」などの積極的なビリーフが言語学習に肯定的に働く一方で、「口頭の授業は私には合わない」や「文法は韓国語で説明したほうが分かりやすい」などの項目において、言語学習に望ましくない影響を与えていることを

述べている。

韓国の日本語学習者の日本語学習ビリーフをまとめると、およそ次のようになろう。

- ① ビリーフの形成には、学習者がこれまでに受けてきた教育観や人生観・価値観が大きく関与する。
- ② 日本語学習ビリーフは、学習の進行につれて変化しうる。そのため、学習段階での教員の言語教育観が変化をもたらす要因となる。
- ③ 韓国における言語学習ビリーフの最大のキーワードは、「正確さ」であると考えられる。正確さを重視するあまり、コミュニケーション活動を重視する授業への積極的参加が疎かになりがちである。正確さ重視の傾向を裏付けているのは、韓国の入試制度や学歴偏重社会にあると考えてもよい。
- ④ 日本文化に対する興味が日本語学習動機を高めていると言えるので、教室内では日本文化に対する興味付与が望まれる。

## 2. 「いい授業」観

中川・長濱・石井（2011）では、韓国の日本語学習者に「いい授業」に関するアンケート調査を実施し、その結果、韓国の日本語学習者は、次のような授業を好むことを明らかにした。

- (1) 韓国の学習者は、「叱られたり、注意されたりする」よりも「誉められたり、励まされたりする」授業をよしと考えている。
- (2) 「教師がさまざまな教授法や練習法を用いる」ことを望んでいる。
- (3) 授業では教師が媒介語として日本語を使用することを望んでいる。しかしながら「学習者の日本語使用」については、さほど積極的ではない。
- (4) 4技能の割合については、「読む・書く」活動より「話す・聞く」活動の多いことを望んでいる。
- (5) 誤りの訂正について、「やさしく行われる」ことを望んでいる。
- (6) 「教科書中心」の授業展開を望んでいる。とはいえ、「視聴覚教材や補助教材を多く用いる」授業が好まれることは言うまでもない。
- (7) 学習者の自主的発言機会の奪われることを好まず、積極的に発言したいと望んでいる。
- (8) 学習者の発言機会について、「学習者が話す」時間より教師が話す時間の多いことを好んでいる。
- (9) 机間巡視などの教師の行動についての項目では、学習者の発言機会や学習活動の種類とも関連が深い。つまり教師が説明をしたり講義をしたりする時間が多くなると、黒板の前に張り付きになり、教室を移動する時間も少なくなってしまう。韓国の学習者は、教師が机間巡視することを望ましいと感じている。
- (10) 教室内の雰囲気は緊張しているよりは暖かく受容的であることを理想としている。また

「学習者が助け合い、励まし合う」和やかな雰囲気を目指していることは注目に値する。

さらに「教室内に笑いが多い」ことや「教師が冗談を言ったり微笑したりする」ことも教室内の雰囲気を和やかにするであろう。

(11) 「日本の文化や習慣が紹介される」授業がよいと考えている。

(12) 「教師が標準語を用いる」ことを求めているが、その要求度はさほど強いものではない。

上記は、ネイティブ／ノンネイティブであることを問わず、「よい授業」全般について問うたものであるが、教師に求められる能力をおしなべてまとめると次のようなことが言える。

- ① 教師には、学習者への心理的配慮が求められる。
- ② 教師には教授技能が求められる。
- ③ 日本語運用能力に秀でている。
- ④ 学習者主体の教室活動が展開できる。
- ⑤ クラスコントロール能力を持ち備えている。
- ⑥ よき日本の文化紹介者となる。
- ⑦ 学習者が目指すべき日本語のよきモデルとなる。

これらは一介の教員に備わった能力であるとは考え難く、日頃の努力と鍛錬から身に付く資質や能力であると言える。すなわち「プロとしての自覚と誇りから生まれる日々の努力の賜物」であると言っても過言ではない。

さらに学習者の学習ビリーフやビリーフとしての「いい授業」観を知ることは、教師の教授スタイルを決定したり、授業シラバスを定めたりする上で極めて重要である。学習者の求める授業と教師の教授観が合致した時、最大限の学習効果が得られるものと考えられる。

しかしながら上記は、学習者が日本語教育全般あるいは教師に対しておしなべて求める単眼的なものであり、ネイティブ／ノンネイティブ教員の個別化を求めるものではない。ネイティブ／ノンネイティブ教員のそれぞれに求められる資質・能力や役割観について明らかにするのが本稿の目的となる。

### 3. 韓国の日本語学習者を対象とした調査

韓国の日本語学習者を対象に、ネイティブ／ノンネイティブ教員に求める資質・能力について問うアンケートを実施した。

#### 3.1 アンケート項目の策定

質問紙の作成に当たっては、縫部他（2006）が作成した41項目を参考に、本論の趣旨である、「ネイティブ／ノンネイティブ教員の連携・協働」や「役割分担」に鑑み、質問項目を若干追加・削除して40項目とした。またネイティブ／ノンネイティブ教員ともに同一項目で問うたが、ネイティブ教員に関する項目では、試験・留学経験にかかる酷目（38～40）を削除した。

韓国人（ノンネイティブ）教員及び日本人（ネイティブ）教員に求められる資質や能力について、それぞれ40項目（37項目）を4件尺度法（4：強く求める，3：求める，2：あまり求めない，1：全く求めない）で問うた。

それぞれの項目の平均値を出していく。アンケート項目については，巻末付表参照。

### 3.2 調査期間

2017年12月～2018年2月。

### 3.3 調査協力者

韓国の大学日本語学習者400名。ソウル市内及び近郊の7大学で日本語を主専攻とする大学生。主専攻学生を対象としたのは，本稿の主旨とするネイティブ／ノンネイティブ教員による授業を経験しているためである。その内訳は次の通りである。

調査対象者の内訳

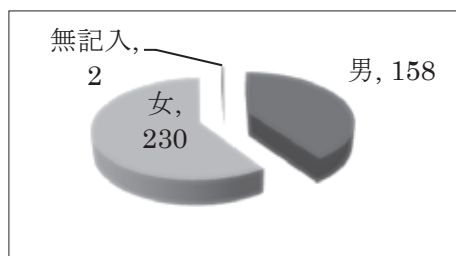


図1 男／女の内訳

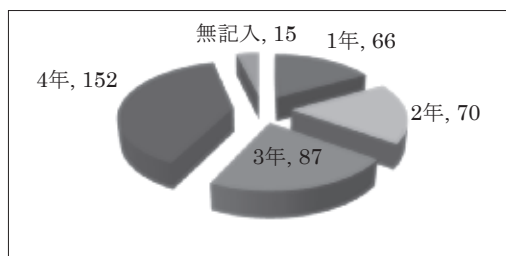


図2 学年の内訳

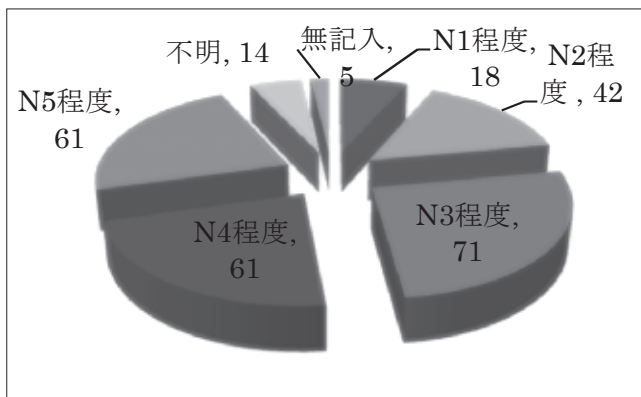


図3 日本語能力試験レベルの内訳

上図に見る限り調査は，学年，日本語能力に関し，ほぼ偏りなく実施されているものと考えられる。

## 4. 調査結果

### 4.1 ネイティブ／ノンネイティブ教員に求めるもの

アンケート調査より、韓国の日本語学習者がネイティブ／ノンネイティブ教員に求めるもの上位を挙げてみる。

表1 ノンネイティブ／ネイティブ教員に求める資質・能力上位 10

ノンネイティブ	ネイティブ
すべての学習者に公平である	正しい発音やアクセントで流暢に話せる
教師として威厳のある態度で学習者に接する	すべての学習者に公平である
正しい発音やアクセントで流暢に話せる	授業を楽しくする
学習者の文法上の間違いを適切に訂正する	学習者の文法上の間違いを適切に訂正する
授業を楽しくする	学習者の発音上の間違いを適切に直せる
学習者の発音上の間違いを適切に直せる	日本人の考え方や思考方法を理解している
進学や就職などの知識が豊富である	日本の歴史や文化・習慣などについて深い知識がある
習得が困難なことと容易なことをよく知っている	コミュニケーション重視の練習をたくさん取り入れる
日本の歴史や文化・習慣などについて深い知識がある	教室を和やかでくつろいだ雰囲気にする
学習者だった時の経験を活かして教える	話すこと・聞くことを中心に教える

上表から次のようなことが分かる。韓国の日本語学習者がノンネイティブ日本語教員に求める資質・能力は、「教員自身が正しい発音やアクセントで話すことに加えて、学習者の音声上、あるいは文法上の間違いを正しく訂正できること」「コミュニケーションとしての日本語（話したり聞いたりを中心に）教えること」「日本の歴史や文化についての知識がある」など、さほど深い教授技能を求めているわけではないが、「かつては学習者だった時の経験を活かして、指導が容易なこと、困難なことを知っている」「進学や就職についてのj法が提供できる」のは、学習者の身近にいるノンネイティブ教員ならではの資質・能力である。「教師としての威厳を保つ」こともノンネイティブ教員に求められる資質となろう。

一方でネイティブ教員には、「正しい発音やアクセントで話せる」「コミュニケーションとしての日本語（話すこと聞くことを中心に）教える」のは、ネイティブ教員の得意分野であると言える。「教室を楽しく和やかにする」役割も、ネイティブ教員に課せられる。

次にネイティブ／ノンネイティブ教員に求めないものとして、挙げたものを並べてみる。

ノンネイティブ教員に求めない資質・能力として注目したいのは、まず「日本語だけで話したり、文法や語彙の説明を日本語だけでする」ことである。コミュニケーションを中心とした授業を望みつつも、「グループワークやペアワークなどの授業」は好まない。その反面、「読むこと・書くことに終始した授業」は好まず、教科書に沿った文法説明は好まない。さらに韓国の学習者がノンネイティブ教員に求めない資質・能力として特徴的なのは、日本語能力試験や修士以上の

表2 ノンネイティブ／ネイティブ教員に求める資質・能力下位 10

ノンネイティブ	ネイティブ
日本語だけで授業をする	コンピュータ教材を用いて授業を進める
コンピュータ教材を用いて授業を進める	修士またはそれ以上の学位を持っている
修士またはそれ以上の学位を持っている	教科書に沿って文法を重点的に教える
日本語の教授経験が長い	教師として威厳のある態度で学習者に接する
ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる	試験（JLPT など）についての知識が豊富である
文法や語彙を日本語で説明する	日本語の教授経験が長い
日本への留学経験がある	文法や語彙を日本語で説明する
読むこと・書くことを中心に教える	読むこと・書くことを中心に教える
教科書に沿って文法を重点的に教える	文法や語彙を学習者の母語で説明する
日本語能力試験（JLPT）で N1 に合格している	翻訳や通訳の練習を取り入れる

学歴、日本への留学経験など、資格に関する資質や能力は要求しないことである。

一方でネイティブ教員には、上記ノンネイティブ教員に求めない資質・能力以外に、「翻訳や通訳の練習」が挙げられ、韓国の日本語教育が、ネイティブ／ノンネイティブで役割分担がなされている項目の一つである。「教師としての威厳」を求めないゆえ、韓国のネイティブ日本語教員が、長期間滞在するのではなく、短期間で任を離れ、威厳を保つべき主要なポストは、ノンネイティブ教員に任されているという推測も成り立つ。

## おわりに

学習者の言語学習ビリーフは、学習者がこれまでに受けてきた教育観や人生観。価値観等によって形成される。しかしそのビリーフは、以降の教育観や学習観によって変化しうるものであると考えられる。そのため、学習者が新たに接する教員のビリーフが学習者の新たなビリーフとして影響を及ぼすことになり、言語学習・教育における教員の役割は重要になる。

韓国の日本語学習者は、日本語学習に対して、「文法学習中心」「正確さ重視」「御用や発音が訂正される」「教師主導型教育」等の強いビリーフを持つ。そのため「威厳を持った」ノンネイティブ（韓国人）教員が指導の中心となり、ネイティブ（日本人）教員は、ノンネイティブ教員の補助的役割を果たすことが期待される。コミュニケーション重視（話すこと聞くことを中心に）の活動が望まれながらも、ペアワーク・グループワークなどの学習者中心の教室活動には積極的参加を望まない。反面で日本文化には興味を示し、日本人とのコミュニケーションができるようになりたいという願望は強い、授業で日本文化の紹介されることも積極的に望んでいる。

日本語だけで授業が展開されることを好まず、母語（韓国語）で文法説明のなされることをよしとする。翻訳や通訳の授業では、ネイティブ（日本人）教員の介入する余地はない。

韓国の日本語教育は、ノンネイティブ教員が主導権を握っており、ネイティブ教員との役割分



担が明確になされていないくらいがある。

こうした教育・学習観が、学習者がこれまでに培ってきた言語学習ビリーフをさらに強化し、ビリーフに変更を生じさせにくくしている。

願わくば、ネイティブ／ノンネイティブ教員の役割分担を明確化し、学習者の望むコミュニケーション能力の伸長に努めてほしい。またネイティブ教員には、補助的役割に終始するのではなく、ネイティブ教員としての専門性を確立し、教授技能の獲得に努めてほしい。

こうしたネイティブ／ノンネイティブ教員に求められる資質・能力を知ることは、日本語教授スタイルの獲得につながるばかりか、求められる日本語教授能力を認識し、韓国で求められる日本語教員の養成の参考に資するであろう。

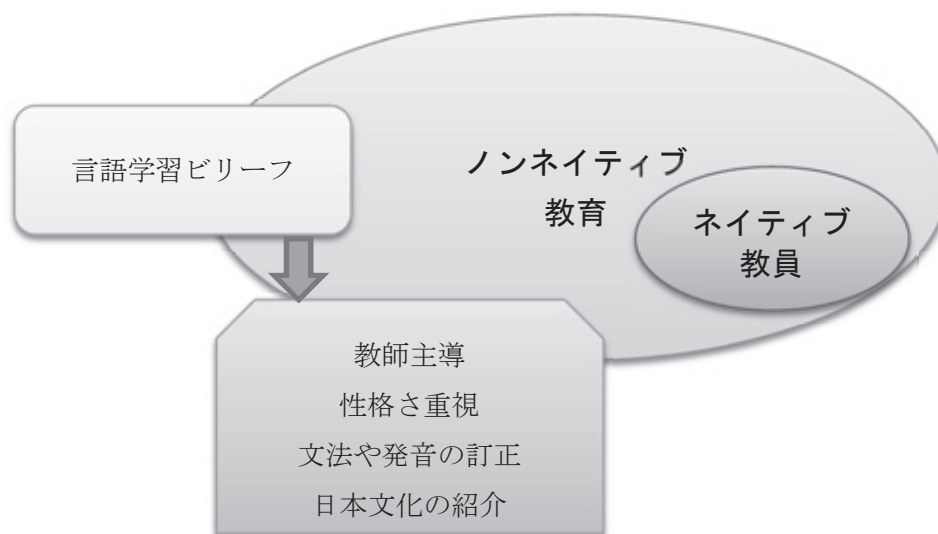


図4 ネイティブ／ノンネイティブ教員雄役割観

## 参考文献

- HIWITZ Elaine (1987) 'Surveying Student Beliefs about Language Learning', *Learning Strategies in Language Learning*, pp. 119-129.
- 板井美佐 (1999) 「日本語学習についての中国人学習者の BELIEFS について — 香港城市大学のアンケート調査から分かったこと —」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』14号, 筑波大学留学生センター, pp. 163-179.
- 岡崎眸・畑和佳子 (2000) 「言語学習についての確信 — 韓国人日本語学習者の場合 —」『御茶の水女子大学人文科学紀要』53号, お茶の水女子大学, pp. 185-201.
- 呉禧受ける (2006) 「韓国における日本語教師のビリーフの特徴 — 日本人教師と韓国人教師のビリーフの比較をとして —」『ことばの科学』19号, pp. 5-23.
- (2007) 「日本語学習におけるビリーフと学習ストラテジーの関係」『ことばの科学』20号, 名古屋大学言語文化研究会, pp. 49-64.

笹島茂・彩文ボーグ (2009) 「言語教師認知の研究」 開拓社。

中川良雄・長濱拓磨・石井香織 (2011) 「教室文化の多様化と『いい授業』観 — 韓国の日本語学習者が考える『いい授業』」 『日本語教育』 第 55 頁, 韓国日本語教育学会, pp. 13-23.

中川良雄・岡本俊裕・倉田誠 (2018 a) 「ネイティブ／ノンネイティブ教員に求められる資質・能力 — 中国語学科と英米語学科の学生が求める資質・能力 —」 『研究論叢』 第 90 号, 京都外国語大学, pp. 141-153.

中川良雄・王尤 (2018 b) 「中国人日本語学習者が求める母語話者／非母語話者教師の資質・能力」 『日本語文化研究』 第五輯 (下), 延慶大学出版社, pp. 59-66.

中川良雄・橋本政義・舟杉真一 (2018 c) 「ネイティブ／ノンネイティブ教員の連携・協働と役割分担 — フランス語学科とドイツ語学科の学生が考える教員の資質・能力 —」 『研究論叢』 第 91 号, 京都外国語大学, pp. 49-60.

縫部議憲・渡邊倫子 (2006) 「学習者が求める日本語教師の行動特性の構成概念」 『日本語教員養成における実践能力の育成と教育実習の理念に関する調査研究』 (平成 16 年度～平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書, 研究代表者: 中川良雄), pp. 94-105.

国際交流基金: <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2014/korea.html#HAKEN> (2018 年 7 月 28 日閲覧)

#### 【付表 アンケート結果】

	NNT	NT
1 絵教材や視聴覚教材など, さまざまな教材を多く用いる	2.92	3.18
2 外国語としての日本語教授法に精通している	3.11	2.98
3 学習者からの質問に即座に答えられる	3.28	3.43
4 学習者に日本語で話すことを促す	2.89	3.25
5 学習者の発音上の間違いを適切に直せる	3.43	3.57
6 学習者の文法上の間違いを適切に訂正する	3.49	3.58
7 教科書に沿って文法を重点的に教える	2.77	2.61
8 教室外でも話しやすく親しみやすさを感じる	3.29	3.44
9 教室外や課外でも学習者と交わることが多い	2.84	3.21
10 教室内において学習者に規律を守らせる	2.96	2.98
11 教室を和やかでくつろいだ雰囲気にする	3.24	3.48
12 教師として威厳のある態度で学習者に接する	3.57	2.64
13 コミュニケーション重視の練習をたくさん取り入れる	3.22	3.5
14 コンピュータ教材を用いて授業を進める	2.43	2.48
15 試験 (JLPT など) についての知識が豊富である	3.06	2.66
16 修士またはそれ以上の学位を持っている	2.55	2.48
17 習得が困難なことと容易なことをよく知っている	3.32	3.36
18 授業を楽しくする	3.46	3.6
19 宿題を適度に出し, きちんとチェックする	2.97	2.96
20 進学や就職などの知識が豊富である	3.34	2.88

21	すべての学習者に公平である	3.6	3.66
22	正しい発音やアクセントで流暢に話せる	3.53	3.69
23	日本語以外のことにも相談にのってくれる	3.03	2.97
24	日本語教育に関する資格を持っている	3.07	2.93
25	日本語だけで授業をする	2.32	2.97
26	日本語と学習者の母語を比較しながら教える	3.13	2.87
27	日本語の教授経験が長い	2.58	2.67
28	日本人の考え方や思考方法を理解している	3.27	3.57
29	日本の歌やドラマ・アニメなどを紹介してくれる	3.17	3.37
30	日本の歴史や文化・習慣などについて深い知識がある	3.31	3.52
31	日本文化を授業の中で体験させてくれる	3.05	3.38
32	話すこと・聞くことを中心に教える	3.17	3.47
33	文法や語彙を学習者の母語で説明する	3.04	2.8
34	文法や語彙を日本語で説明する	2.7	2.72
35	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる	2.61	2.83
36	翻訳や通訳の練習を取り入れる	2.84	2.82
37	読むこと・書くことを中心に教える	2.76	2.72
38	学習者だった時の経験を活かして教える	3.3	
39	日本への留学経験がある	2.74	
40	日本語能力試験（JLPT）でN1に合格している	2.78	

※ NNT = ノンネイティブ教員, NT = ネイティブ教員

